

卒業生からのメッセージ

記念すべき第1号は、本校校長の森井先生が届ける、現在弁護士として活躍中の岩本千恵さんです。

岩本千恵さんといえば、バスケットボール部でポイントガードとして活躍するカッコいい姿が思い浮かびます。ボーイッシュで、雰囲気のある高校生でした。弁護士を目指して法科大学院で頑張っていると伺ったときは、心の中で「頑張れ!」と思っていたので、地元で活躍されているということを実際に嬉しく思います。



森井静子校長

1 はじめに

中津川市の山本法律事務所で、勤務弁護士として働いています。年齢は35歳ですが、弁護士歴はまだまだ若手の4年目です。

2 進路を選んだきっかけ

中津高校では、バスケットボール部に所属していました。小学校3年生からやっていたこともあり、高校生活の大半は友人と部活動に熱中していました。

将来は、バスケットボール選手になりたいと思っていました。でも、私の身長は155cmしかありません。体格的に勝負できるのだろうか、もしなれなかったら将来どうなるのだろうか、他にやりたいことも分からないし、などと悩み進路選択に相当焦っていました。

そんな時、刑事裁判を題材にした『評決のとき』という洋画を見ました。ある刑事事件を担当した弁護人の苦悩や弁護活動が描かれたものでしたが、その弁護人が裁判で行った弁論に衝撃を受けました。あのような視点に立って物事を考えることができる弁護士ってどんな仕事なのだろう、格好良いな、と思いました。

ちょうど法科大学院制度が出来たこともあり、その時、弁護士という仕事に興味を持ちました。

それから頑張って勉強をしましたが、大学に入るのに一浪をし、司法試験も3回落ちたりと、なかなか結果がでませんでした。右往左往した挙げ句、ようやく司法試験に合格できたのは30歳の時でした。

3 今の気持ち

弁護士は人と会話し、事件を解決していくことが主な仕事です。そのため、コミュニケーション能力が重要です。

弁護士を目指すと決めたとき、人と話すことが不得手なことを知っている友人からは、向いてないでやめとけ、と言われてきました。

確かに、人と話すことは多いし、人前で発言することもあります。法廷で話すこともあります。4年経っても緊張しますし、相変わらず得意ではありません。自分でも、向いていないかもしれない、やめたい、と思ったことは何回もあります。

また、目の前のことに向き合うことで精いっぱい、やりがいなども正直まだよく分かりません。憧れた弁護士像からはほど遠いです。

でも、向いてなかろうが、しんどかろうが、なりたくてなりました。親にも沢山迷惑をかけましたが、あの時、向いていないからと、諦めなくて本当に良かったと思っています。

4 高校生の皆さんへ

高校時代は人間関係のことや自分の将来のことなどもの凄く悩むと思います。まして、コロナ禍という状況の中で、今、とても大変だと思います。

でも、悩んだ分だけその人の力になると思います。そして、いつか何となく安心できる日が来ると思います。目一杯悩んで考えて、人の力も一杯借りて、少しずつ自分の人生を歩んで行って欲しいです。

